

学校教育目標

ともに輝きひびき合う子 ~つながりを生かして学びを深める子どもを育てます~

- 〈知〉 見通しをもった問題解決力や、豊かな自己表現力を育てます。
- 〈徳〉 互いに認め合い、協働的に生きていこうとする姿勢を育てます。
- 〈体〉 心と体を鍛え、自分や人の命を大切にしようとする姿勢を育てます。
- 〈公〉 社会の一員としての資質を身に付け、まちと共に生きていこうとする姿勢を育てます。
- 〈開〉 わがまちを理解し、社会への視野を広げ貢献しようとする姿勢を育てます。

学校概要	創立 92 周年	学校長 瀧田 哲也	副校長 鳥形 昌子	2 学期制	一般学級: 17	個別支援学級: 5
	児童生徒数: 517 人	主な関係校: 横浜市立南中学校・横浜市立大岡小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	南中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>〈問題発見・解決能力〉</p> <p>〈情報活用能力〉</p> <p>〈言語能力〉</p> <p>〈持続可能な社会をつくる力〉</p>	<p>南中学校 井土ヶ谷小学校 大岡小学校</p>	<p>「自主性」 「自己肯定感」 「コミュニケーション力」</p> <p>・粘り強く物事に取り組める子ども ・相手の話を受け入れ、さらにより良いものを目指す子ども ・あいさつができる子ども</p> <hr/> <p>・ブロック授業研究を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点）からの学習意欲を高める授業」をテーマとして、子どもたちの興味や主体性を伸ばしていくために、ICTの効果的な活用方法を含めた教科研を進める。</p> <p>・中学校において、生徒主体で部活動体験などの交流を行うことにより、安心して中学校に入学できるように中1ギャップを解消する。</p> <p>・子ども像を共有しながら児童生徒指導や特別支援教育の情報交換を行う。</p>

中期取組目標

- 授業のユニバーサル化と学習環境を整備し、子ども一人ひとりに寄り添った、いじめのない風土をつくり、活力と魅力にあふれた学校にします。
- ・分かる楽しさが実感できるような教育を推進し、自ら考え、表現できる子の育成を目指し、一人ひとりが自分のよさを見出し、伸ばそうとしながら楽しい学校生活が送れるようにします。
- ・子どもたちの思いを受け止め、学力の向上を図るとともに、「生きる力」を育む「子どもが主人公」の学校づくりを推進します。
- ・一人ひとりのよさを生かし、家庭・地域・関係機関や公共施設と交流・連携を深め、「ひと」とのつながりを基盤とした誰もが「楽しい」と思える学校創りに努めます。
- ・アクティブセンター構想を柱として、つながりを生かした主体的な学びを創造し、問題発見・解決能力、情報活用能力、言語能力を育てます。

重点取組分野	具体的取組
<p>知 生きてはたらく知</p> <p>担当 学校経営部会(知)</p>	<p>①「つながりを生かして学びを深める子どもの育成」を研究主題とし、児童一人ひとりの表現と、児童が相互に学び合うことを通して力を伸ばしていくことを目指します。</p> <p>②教職員が連携をとって子どもたちの実態把握をし、一人一人に合った授業づくりを実践し、学力向上を目指します。</p>
<p>徳 豊かな心</p> <p>担当 学校経営部会(徳)</p>	<p>①道徳科と他教科・領域や学校行事との関連を意識して道徳科の学習を充実させ、子ども人権会議、市・区子ども会議・横浜国際平和スピーチコンテスト、人権委員会の児童主体の取組等の活動を通して、多文化共生の心や人権感覚を高めていきます。</p> <p>②読書センターの充実や電子書籍「Yomokka!」の推進を通して、豊かな心を育てる読書活動を進めていきます。</p>
<p>体 健やかな体</p> <p>担当 学校経営部会(体)</p>	<p>①家庭と連携するとともに、体育科・特別活動の学習、学校保健委員会や運動・保健・給食委員会の児童主体の取組を活かし、規則正しく健康な生活を送ることができる子どもを育てます。</p> <p>②校内放送やお便り(食育だより・保健だより)等を通して、健康教育・食育に関する情報発信を逐次行い、家庭と連携を図れるようにします。</p>
<p>公開 地域連携</p> <p>担当 交流連携推進部</p>	<p>①地域の材や外部人材を活用した学習活動や幼保中との交流活動等を取り入れ、各教科等の学習を充実させます。</p> <p>②南中ブロックでの3校合同の学校運営協議会や授業研究会を通して、9年間を見通した子どもの育成について地域とともに考えていきます。</p>
<p>いじめへの対応</p> <p>担当 いじめ防止対策委員会</p>	<p>①全職員が子どもの気持ちに寄り添うことができるよう、アンテナを高くして、いじめの未然防止・早期発見・積極的認知を行います。</p> <p>②月1回、いじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努めます。児童アンケートや横浜St☆dy Naviの取組等により些細な変化を見逃さない体制づくりをします。</p>
<p>児童支援</p> <p>担当 指導部</p>	<p>①「いいのちを大切に」「ど」どこでもいつでも「が」外部機関と連携する「や」やさしく寄り添うの「い」ど「が」やの児童支援を全職員で共有し、子どもを支援していきます。</p> <p>②児童支援専任を中心に情報を共有し、未然防止と組織的対応に努め、対処療法ではなく、課題を根元から絶つように努めます。</p>
<p>特別支援教育</p> <p>担当 特別支援教育部</p>	<p>①児童一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるために、教職員がよりよい支援の在り方についての理解を深め、関係機関と協力して支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していけるようにします。</p> <p>②学習のユニバーサル化を意識した学習展開を図るとともに、習熟度別の学習形態や国際教室・特別支援教室の設置を通して、どの子どもにも学びへの意欲や理解の深まりの機会を保障します。</p>
<p>人材育成 組織運営</p> <p>担当 教務部・衛生委員会</p>	<p>①組織・校務分掌のつながりを明確にし、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成するとともに、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにします。</p> <p>②子どもと向き合う時間や必要な会議や研修の時間を確保するために、組織の見直しや会議の精選、業務アシスタントの活用、業者への委託などを進めます。</p>